令和４年度

社会福祉法人愛光園

事業報告書

目次

１、総括 ---------- 1
２、各事業所の状況
（１）稲岡事業所 ---------- 3
（２）アイタウン ---------- 6
（３）山川事業所 ---------- 7
（４）大久保事業所 ---------- 9
（５）あづま事業所 ---------- 10
（６）松原事業所 ---------- 13
（７）六郷事業所 ---------- 14
（８）猿田事業所 ---------- 17
（９）愛光園障害者相談支援センター共生 ---------- 18
（１０）足利市障がい者基幹相談支援センター ---------- 19
３、部会報告
（１）就労部会 ---------- 22
（２）介護部会 ---------- 23
（３）居住部会 ---------- 24
（４）地域支援部会 ---------- 25
４、委員会報告
（１）人材育成委員会 ---------- 26
（２）広報委員会 ---------- 27
（３）職場環境委員会 ---------- 28
５、評議員会の開催状況 ---------- 28
６、理事会の開催状況 ---------- 29
７．外部研修等実施状況 ---------- 30
８．事業別職員数 ---------- 32
９．補助事業の活用状況 ---------- 33

令和４年度　事業報告書

１．総括

新型コロナウイルスの感染は今年の春先にはかなり減少し、令和５年５月８日には第２類から第５類へと感染法上の位置付けが移行することになりました。これに合わせてマスクの着用や各種イベントも実質制限が解除となり、これからはインバウンドを含め、多くの場面でコロナ前の活動状況になると思われます。一方で、私達障がい者施設の運営については、もうしばらくは第２類の状況下とほぼ同様の予防・制限は続くことになるようであります。

令和４年度はこのコロナ危機の他、エネルギー価格の高騰及び電気（電力）料金の値上がり。そして円安による身の回りの生活物資の値上がりなどにより、公定価格である給付費での運営は、真に節約と省エネの日々でありました。

幸いなことに、愛光園にあってはコロナによるクラスターの発生がない１年であったことと、就労科目であるクリーニングにおいては、取引先に料金の値上げの理解と協力を頂いたことで、こちらも何とか１年過ごすことが出来ました。

また、今年度は館林市における第３の拠点事業所「アイヴィレッジ」が開所し、生活介護事業所「カレンフィールド」及び、共同生活援助事業所「カレンホーム」の２つの事業所の運営が開始されました。社会資源の少ない地域での重度の方の受け入れ施設として多くの方からの反響を頂き、両事業所とも順調に運営が行うことが出来ました。

この結果、令和４年度においては厳しい中にあって、おおむね大過なく運営ができたものと考えております。

以下令和４年度の事業報告です。

①整備関係

ａ.愛光園ホームあすかの改修工事　　55,186 千円

ｂ.陽光園送迎車両　　１台　　4,300 千円（栃木県共同募金配分事業 1,500 千円含）

ｃ.就労設備等の改修　５件　　約 8,635 千円

②重点項目について

(1) 足利・佐野・館林地区における障がい福祉事業のさらなる進化

館林市に新たな拠点「アイヴィレッジ」を開所し、地域の福祉のサービスの向上に努めました。

(2) 相談支援体制の強化と充実

相談支援専門員を増員し、令和 5 年度開所予定の館林市相談支援事業所の準備を行いました。

(3) 人材育成に特化した研修、会議、委員会の進化

コロナ禍でも各会議、委員会を積極的に開催し、一部研修を再開させるなど、事業を推進いたしました。

(4) 職員等の資格取得支援制度活用を推進

令和４年度は延べ 11 名の方が資格取得しました。

精神保健福祉士、介護福祉士、衛生管理者、社会福祉主事、クリーニング師　他

(5) 災害時避難確保体制の構築

消防署立会いの下、定期的な避難訓練の実施をしました。

(6) コロナ禍での感染防止と生活面の安定

利用者様やご家族様にも御協力を頂き、基本的な感染対策を徹底したほか、施設内でのワクチン接種の実施や定期的な抗原検査を行いました。結果として各事業所でクラスターを出すことなく、1年を通じて運営を行うことができました。

(7) 職員のストレスを軽減し、虐待防止のための体制を構築

各部会ごとに虐待防止研修や身体拘束の適性化に向けた研修を行い、それぞれの部門に沿った虐待防止の方法を職員が考え、伝達をしました。また、管理者やサービス管理責任者と職員の面談を行い、日ごろの業務のストレス緩和に努めました。

(8) 本部および事業所間の意思疎通と連携の強化

管理者で実施する経営会議を毎週実施しました。また、各事業所のサービス管理責任者が参加する事業所連絡会をオンラインにて月2回開催し、事業所間の情報共有と連携強化に努めました。

(9) 医療との連携強化

嘱託医、産業医と連携し、コロナの感染対策の他、重度化・高齢化する利用者様の支援に努めました。

③法人の運営

(1) 人材の確保及び資質の向上

求人チャンネルの増加および、マニュアルの整備を行いました。

(2) 経営基盤の強化

アイヴィレッジの開所や各事業所における利用者様の確保に努めました。

※②③は現在も順次推進中。

２． 各事業所の状況

（1）稲岡事業所

ア、就労系サービス《愛光園（就労継続支援Ｂ型)》・《共働舎（生活介護)》

a 概況

・1 年を通じてコロナ感染予防に取り組み、クラスターが発生することなく事業を運営することが出来ました。また、コロナの濃厚接触になってしまった方に対して、隔離をしながら作業が続けられるように作業環境を整え、受け入れを実施したことで、利用者様の生活のリズムを極力崩さずに支援を継続することが出来ました。

・エネルギー価格の高騰により、電気代・ガス代が前年度比 23%増（前々年度比 77%増）となりました。そのため、前年に引き続き、大型機械の運転時間の組み換えや節電に取り組みました。また、取引先へ値上げの交渉を実施し、御協力いただくなど利益の確保に努めました。結果、令和 4 年度の平均工賃は 35,000 円を超え、前年度と比べて 3,000 円近く向上することが出来ました。

・共働舎ではビデオの解体作業など、クリーニング以外の作業も開始し、多様なニーズに対して作業を提供できるよう整えました。

・利用者様の評価について、作業場所による負荷等も考慮し、適正な評価を実施しました。

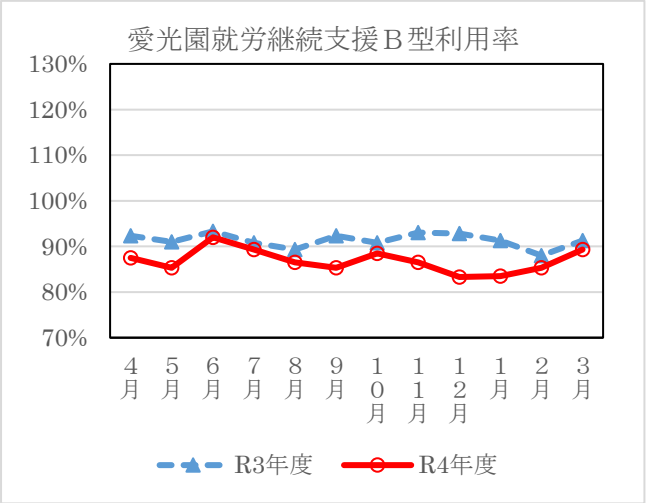
・コロナ禍により外出のレクが制限される中で、他事業所と協力しキッチンカー6 台を集め、食事会を行う等の工夫を行い、利用者様に喜んでいただきました。

b 利用率の推移

≪愛光園（就労継続支援Ｂ型）≫

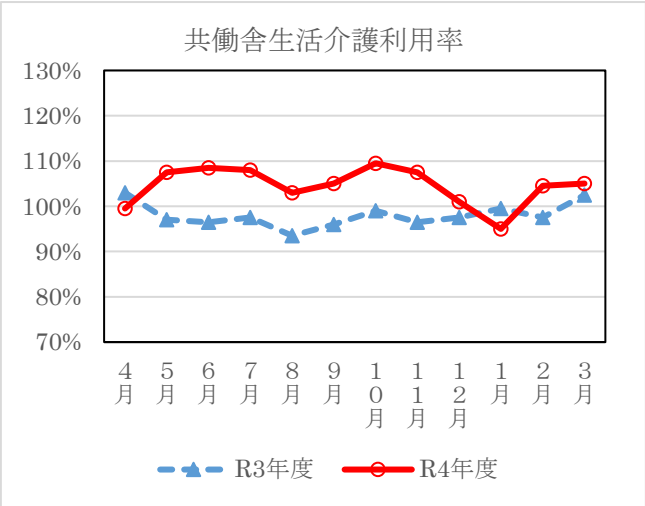
定員	40 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	10,822 名
平均利用者数	34.7 名
平均利用率	86.7%
平均工賃	35,161 円

※以下就労継続支援Ｂ型は平均工賃、
生活介護は平均区分を示しております。



≪共働舎（生活介護）≫

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	6,487 名
平均利用者数	20.9 名
平均利用率	104.3%
平均区分	4.3



イ、入所・介護系サービス《陽光園・(施設入所支援・生活介護・短期入所)》
《愛光園ホーム（福祉ホーム)》
《サンリット（通所介護、介護予防通所介護)》

a　概況

・平均障害支援区分が生活介護では 5.7、施設入所においては 5.8 と、令和 3 年度に引き続き法人内で最も重度の方々が多く利用されている事業所として運営をいたしました。長引くコロナ禍においても事業所を選んでいただき、継続してご利用いただけたことは職員の励みとなりました。

・コロナ感染対策と致しまして、カラオケ機材を使用したレクリエーションや大型イベントの自粛をしてまいりましたが、今春より感染対策を継続したままカラオケレクの再開をするなど、アフターコロナに向けて動き出しました。

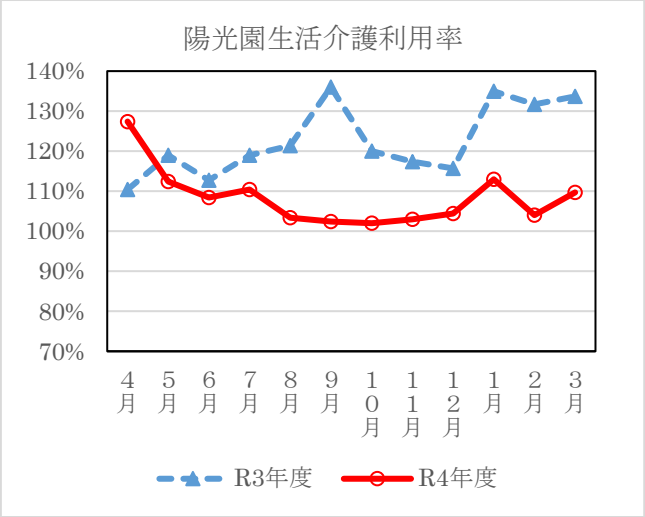
・施設入所、および短期入所におきましても、利用者様、ご家族様のご協力もあり、コロナ感染の拡大もなく過ごすことができました。また、足利市の地域生活支援拠点事業である「あっしーネット」で 2 名の方を緊急的に受け入れるなど、地域で過ごす障がい者の方やその家族の安心・安全な生活作りに寄与しました。

・サンリットにおいては、令和 4 年度より営業日を週 5 日から 3 日に変更し運営を行いました。少人数での運営ではありましたが、ご希望の飲み物の提供や月次での食事レクなど、より皆様のご希望に添えるよう運営しました。

b　利用率の推移

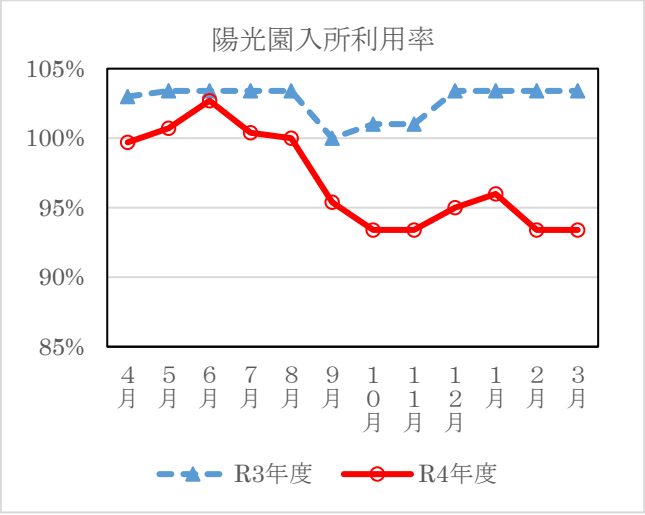
≪陽光園（生活介護）≫

定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	10,096 名
平均利用者数	32.5 名
平均利用率	108.2%
平均区分	5.7



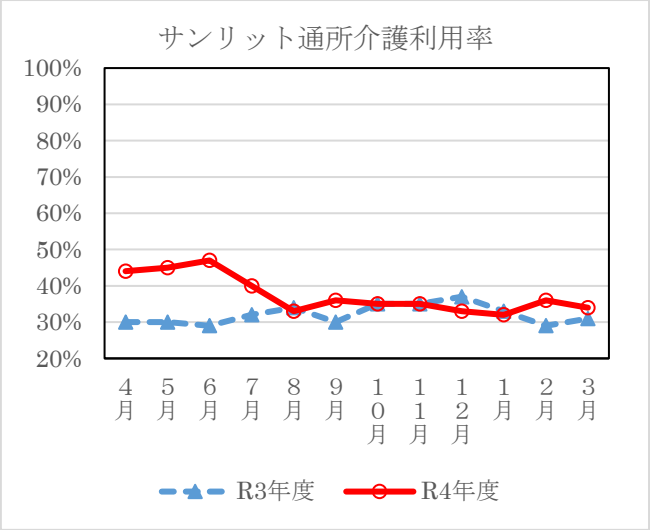
≪陽光園（施設入所）≫

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	11,233 名
平均利用者数	30.8 名
平均利用率	102.7%



≪サンリット（地域密着型通所介護）≫

定員	10 名
開所日数	155 日
延べ利用者数	572 名
平均利用者数	3.7 名
平均利用率	36.9%



（2）アイタウン《ホームほのか・ホームひだまり（共同生活援助）》

a 概況

・身体機能低下や認知機能低下の進行がみられる利用者様に対して、安全面に配慮しながら、出来る限り自立した日常生活が送れるように支援を行いました。

・口腔ケアの一環として、歯科医師と相談しながら、定期健診、治療、義歯作成等を進めていきました。

・コロナ禍において、感染予防の実施や感染者の早期発見により、感染拡大を防ぐことができました。

・虐待防止研修は、常勤、非常勤、宿直者全職員に実施し、虐待に対する意識を高めました。また、併せて身体拘束適正化研修を実施しました。

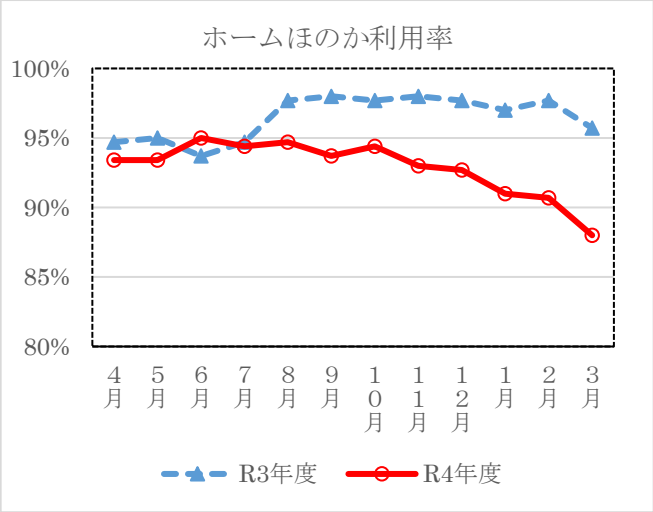
・レクリエーションは、コロナウイルス感染予防から法人内、屋外中心となりましたが、感染者状況や換気等コロナ感染対策を徹底し、利用者様から希望の多いカラオケも多く実施しました。

4 月　お花見ドライブ、織姫山散策
5 月　朝マック
6 月　手作りカレーライス、花植え
8 月　花火、スイカ割と素麺
7 月　DVD 鑑賞会
10 月　炭火で焼きおにぎり、デザートレク
11 月　カラオケ、テイクアウト（牛丼）
12 月　クリスマス会（カラオケ、ビンゴ大会）
1 月　初詣、書初め
2 月　恵方巻とつみれ汁、カラオケ
3 月　テイクアウト（すき家等）、花見

b 利用率の推移

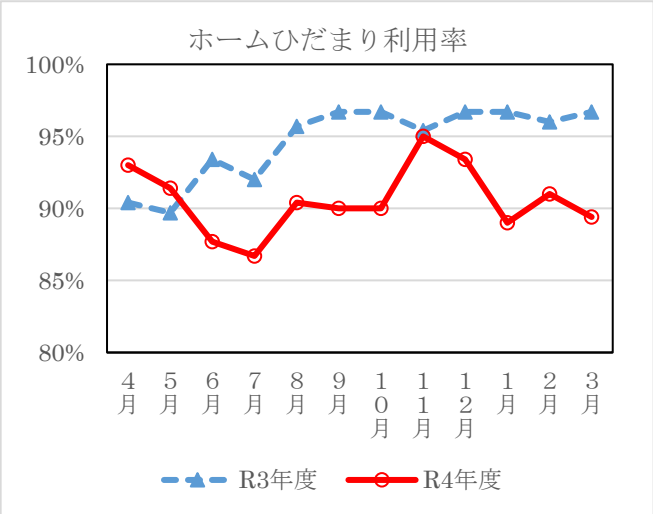
≪ホームほのか（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	10,499 名
平均利用者数	28.8 名
平均利用率	95.9%



≪ホームひだまり（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	10,507 名
平均利用者数	28.8 名
平均利用率	96.0%



（３）山川事業所

ア、《足利愛光園（生活介護・就労継続支援Ｂ型)》

a 概況

・生産活動（クリーニング関係）については、感染症や相次ぐ値上げ等の影響もあり全体的には減少傾向でしたが作業量は概ね確保できました。

・都市ガスの価格が毎月上がり続け、令和５年１月は昨年の倍近い値段になり生産活動に大きな影響を与えました。2 月以降は国の激変緩和対策が始まり少しずつ価格が下がり始めました。また、その他の備品や部品も値上げがあり、ランニングコストに影響しています。今まで以上に経費節減の取り組みを推進しながら対応しています。

・就労継続支援 B 型の利用者様の作業特性を生かす取り組みを行う事で、作業に対する意欲向上が見られました。また、効率よく行う事で作業評価も上がり高工賃の支給へ繋がりました。

・主要機械の日頃のメンテナンスに加え、老朽化し始めた設備に注意をしながら対応し、早めにメーカー等と連絡調整を行い、生産活動に影響しない体制で取り組む事ができました。

・熱中症対策で、洗濯工程担当の利用者様に対してはスポーツドリンク等の提供等を行いました。また、全員に暑い時期のアイスクリームの提供を行い大変好評でした。

・誕生日月（2 ヶ月一緒）の利用者様に選んでもらい昼食時にテイクアウト弁当を提供しました。

・行事についてはコロナの影響もあり事業所内で出来る行事を行いました。（キッチンカー昼食、クリスマス会、歳末プレゼント）

・外出レクは法人内；一歩、三桝屋總本店に限定して行いました。（食事・買物）

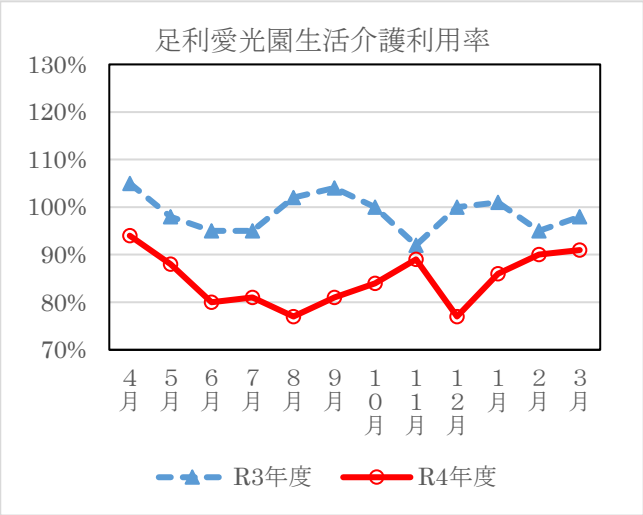
・就労事業所合同による行事を始めて行いました。（キッチンカーを 6 店舗来て頂き、作り立てのラーメン・ピザ・から揚げ・クレープなど提供しました。参加者には記念のカップや名入り袋をプレゼントしました。）

・コロナ、インフルエンザ等の感染症対策（朝・昼の体温確認、マスクの着用、手指消毒の徹底、作業場の換気）を通年行う事で、感染症のクラスターを発生する事なく生産活動が行えました。

b 利用率の推移

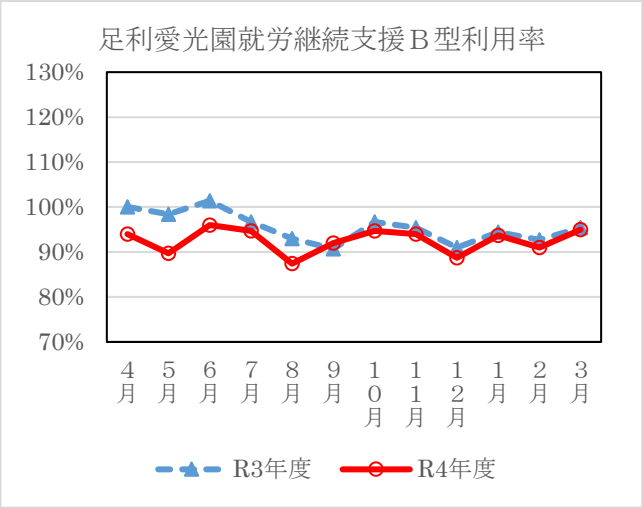
生活介護

定員	10 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	2,628 名
平均利用者数	8.4 名
平均利用率	84.2%
平均区分	4.2



就労継続支援Ｂ型

定員	30 名
開所日数	313 日
延べ利用者数	8,673 名
平均利用者数	27.7 名
平均利用率	92.4%
平均工賃	37,252 円



イ、《愛光園ホームあすか（共同生活援助）》

a 概況

・コロナウイルス感染等に注意しながらの生活全般の支援を行いました（マスクの着用、手指消毒、取手等の消毒、トイレ・洗面所・共同使用箇所の消毒の徹底、買い物代行等）。また、毎朝/夕の検温・健康状態の把握を行う事で、感染症等のリスク軽減に繋がりました。

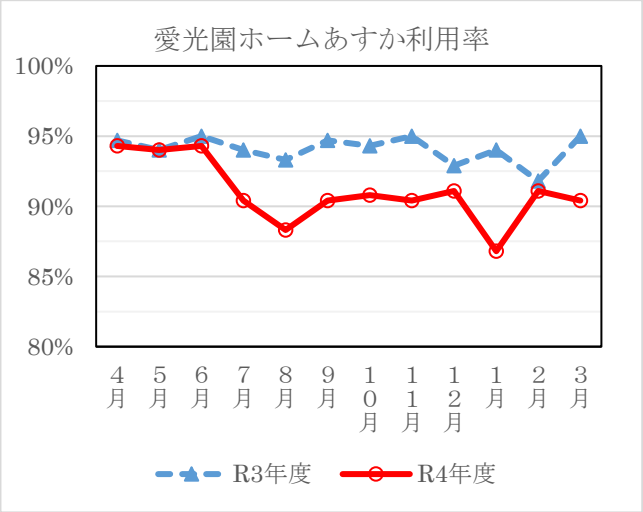
・感染拡大時期には外出や外泊の制限を実施し、利用者様・ご家族様等にも感染症リスクの軽減に協力いただきました。

・レクリエーションについては、職員の手作り食事提供や一緒に行う手芸活動など取組んでみました。

4 月　お母さん食堂（スタッフの手作り夕食提供；生野菜・温玉・生ハム等）
5 月　カレーの日（スタッフ手作りカレーの提供・デザート付き）
6 月　オリジナルキーホルダー作り（スタッフと一緒に利用者様が制作活動を行った。）
8 月　さっぱり夏野菜ソーメン提供（敷地内で作った野菜を使用して提供）
10 月　モスバーガーを夕食に（夕食に提供した。）
2 月　節分（恵方巻・デザートを提供）、バレンタインプレゼント（ゴディバのチョコ）

b 利用率の推移

定員	28 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	9,571 名
平均利用者数	26.2 名
平均利用率	93.6%



（4）大久保事業所

《一歩（就労継続支援Ｂ型)》

a　概況

・コロナ禍において、売上向上と利用者様の工賃向上のため、法人内事業所と連携し販売促進の協力を進めました。

・コロナの状況をみながら、ハートショップを始めとする法人外販売も徐々に機会を増やしていきました。（佐野短期大学、足利警察、とちぎ国体、フラワーパーク駅など）

・エネルギー価格の高騰、また物価高の影響により、令和４年６月に商品の値上げを行いました。懸念された売り上げ減少はほとんどなく、お客様からもご理解の声もいただきました。

・利用者様それぞれの障がいの程度や特性に応じた作業と支援の提供を行い、また、能力の向上に努めました。

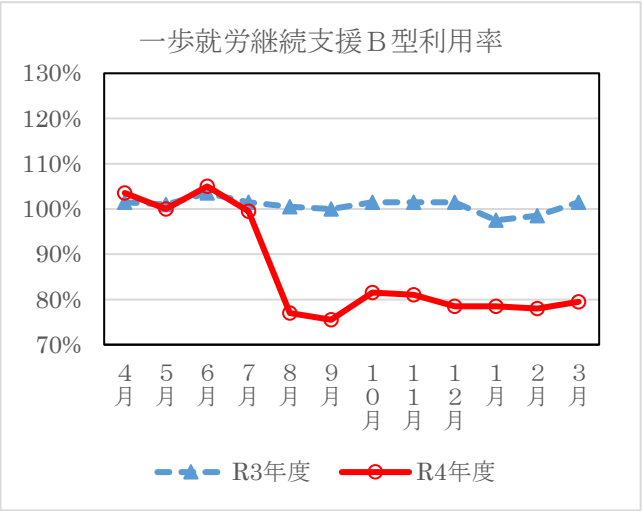
・就労事業所合同による行事を初めて行いました。（キッチンカーを 6 店舗来て頂き、作り立てのラーメン・ピザ・から揚げ・クレープなど提供しました。参加者には記念のカップや名入り袋をプレゼントしました。）

・令和４年８月より、施設外就労が始まりました。協力企業先が食品関係であり、作業中の服装を始め、衛生管理は厳格でありますが、一歩も同じ食品関係であるため、戸惑うことなく作業に取り組むことができました。

b　利用率の推移

定員	20 名
開所日数	269 日
延べ利用者数	4,640 名
平均利用者数	17.2 名
平均利用率	86.2%
平均工賃	15,398 円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 687 名/年を除く



（５）あづま事業所

ア、《彩光園（生活介護・就労継続支援Ｂ型)》

a　概況

・作業では、クリーニングのたたみ作業に加え、ビデオテープの解体作業やキャスターの梱包作業等を継続して行いました。利用者様の特性に合わせた作業スペースを確保するため、県の補助金交付制度を活用し空調設備の設置も行いました。また、コロナ禍における適切な感染予防対策を行うことで、より多くの利用者様に安心して作業に取り組んでいただける環境を目指しました。

・7 年目を迎えた施設外就労では、協力企業との連携を密に行うことで、クリーニングの前処理作業を中心に多種多様な作業を任せていただけるようになり、利用者１人１人が作業への責任や自信をもって取り組むことができました。また、作業での協働を通して施設外就労先との信頼関係も強化されてきました。

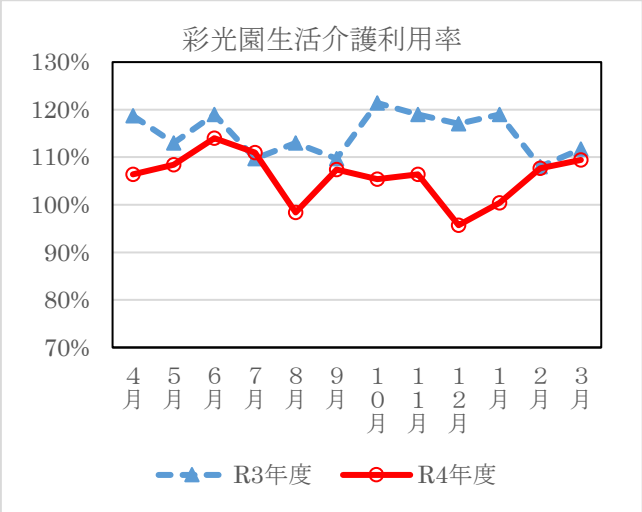
・生活介護では、外出自粛や活動の制限をせざるを得ない状況の中でも、安心して人とのコミュニケーションや共に過ごす喜びを感じていただけるよう、日々のレクリエーションの充実に力を入れました。また、作業と余暇活動の組み合わせを工夫することで、特別支援学校の卒業生の受け入れもすすめました。

・外部との接触に十分配慮しながら、利用者家族様やグループホーム、関係機関との情報共有を密に行い、より連携を強めることで個別支援の充実、利用者様の獲得に努めました。

b　利用率の推移

生活介護

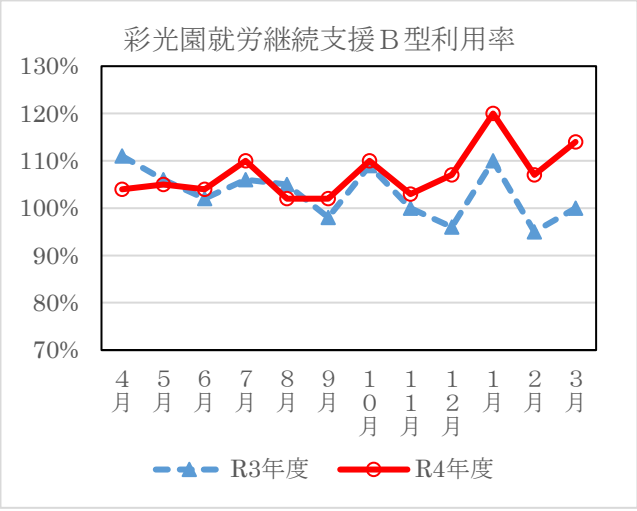
定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	9,862 名
平均利用者数	31.7 名
平均利用率	105.7%
平均区分	4.8



就労継続支援Ｂ型

定員	10 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	3,330 名
平均利用者数	10.7 名
平均利用率	106.7%
平均工賃	27,949 円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 1,529 名/年を除く



イ、《ホームかがやき（共同生活援助）》

a　概況

・かがやき・きらめき共に定員は 10 名、ひばりの定員 6 名を合わせ、合計定員数は 26 名となっております。利用者様の年齢は 25 歳から 70 歳、障がい種別は精神・知的・身体と様々な方々にご利用いただいております。

・障害支援区分は、区分無しの方から区分 6 の方までと様々です。棟ごとの平均区分の内訳は、かがやき 4.8、きらめき 4.5、ひばりは 1.6 となり、かがやき、きらめきに関しては障がいが重度の方も多くご利用いただいております。3 棟の平均区分は 4.0 となります。

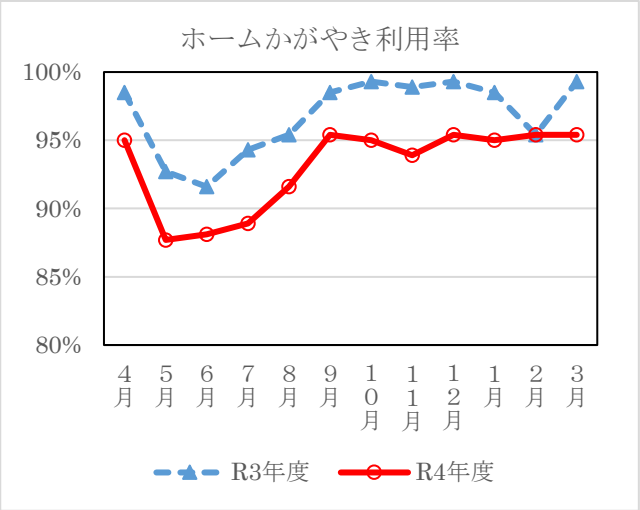
・「利用者本位」「利用者主体」を考え、個別支援計画の作成を行いました。また、個々が持つ強みやご家族様の要望を汲み取り、日々の支援からモニタリングを実施し、変動するニーズに合った支援を実践しました。

・新型コロナウイルス感染の予防のため、手洗い、うがい、手指消毒、マスク着用、換気、3 密回避、外出の自粛に努めてきました。

・地域交流の機会である地域の納涼祭はコロナ禍である為開催されず参加できませんでしたが、上羽田の八幡宮は小規模ながら神楽が奉納され、利用者様も見学し、地域の方と楽しむことができました。

b　利用率の推移

定員	26 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	9,029 名
平均利用者数	24.7 名
平均利用率	95.1%



ウ、《なないろ（放課後等デイサービス・児童発達支援）》

a　概況

〇放課後等デイサービス

・1 日の定員は 10 名で、曜日によって 11 名から 15 名の利用児を受け入れていました。この 1 年間の在籍利用児は 39 名になりました。

・コロナ禍の中でも、利用児のニーズに基づく個々の課題を達成するための個別支援計画並びに 2 回のモニタリングにつきましては、例年同様に保護者の皆様のご参加と熱心なご意見をいただきまして有意義な時間を共有できました。

・コロナの感染については保護者の連絡や SNS から各校の情報をいただき、秘密保持の原則に基づいて管理者と看護師、各支援員で共通理解を図るための感染情報と自粛要請をまとめたレジュメは今年度も 70 通になりました。おかげで、事業所と保護者間の早めの連絡調整ができて『なないろ』の療育から感染者は出ませんでした。

・昨年から続けてきた感染症対策は、基本的な感染対策パーテーションを利用した三密回避はも

ちろん、消毒用アルコール、マスク、使い捨て手袋の他にペーパータオル等も十分に行きわたり、感染症対策キットの常備と抗原検査の定期実施も始まって、支援員は対策をスムーズに行うことができました。

・月の第１水曜日には、児童発達支援『きらら』の協議内容も含めて、利用児への支援や各行事の運営等について共通理解を図り職員のスキルを高く保てるようにしています。

・なないろだより『れいんぼう』は各関係機関からも原稿をいただき、行事予定や写真等で利用児の様子をご家族様や在籍校へお伝えしています。また、保護者へはその日の利用児の活動を具体的にお伝えしご希望に応じて個別の相談も随時行っております。

〇児童発達支援

・土曜日のみの開所で、放課後等デイサービスを利用される児童・生徒と合わせて定員は 10 名です。3 月末の利用児は、年少児１名、年中児１名、年長児３名の５名でした。

・コロナの感染状況については、保護者の連絡とＳＮＳから情報により各ご家庭へ自粛要請をさせていただいくと共に、必要に応じてパーテーションを使用し、利用児が安全に療育できるように努め『きらら』の療育から感染者を出すことはありませんでした。

・『きらら』を利用される保護者の方々は、土曜日の開所により仕事に支障をきたさず療育ができることを喜ばれ、手先の巧緻性やコミュニケーション等を育む個別の支援と小集団による社会性を育てる療育を組み合わせについてもご満足いただいています。

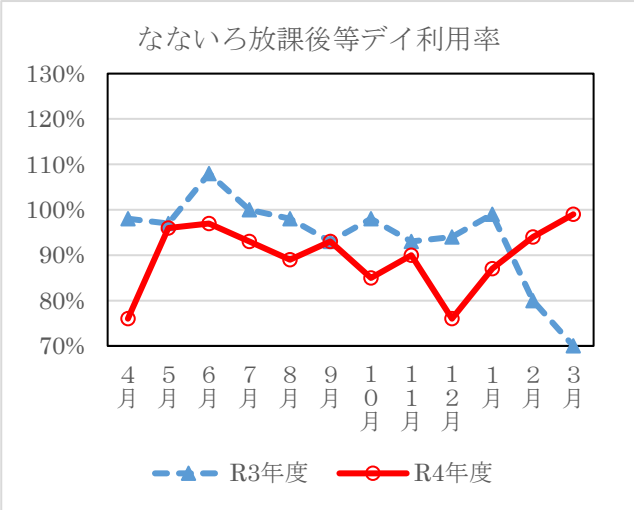
・個別支援計画の承認とモニタリングを例年通り実施して、保護者からのご意見やご要望を取り入れ、発達段階のニーズに寄り添った個に即した療育を提供しました。

・『きららだより』は季刊号として各関係機関からも原稿をいただき、写真も掲載して利用児の様子をご家庭にお伝えしてきました。

b　利用率の推移

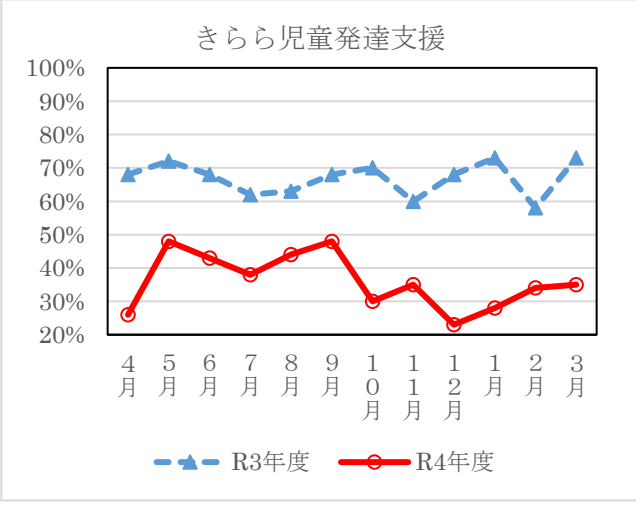
放課後等デイサービス

定員	10 名
開所日数	286 日
延べ利用者数	2,551 名
平均利用者数	8.9 名
平均利用率	89.2%



児童発達支援

定員	10 名
開所日数	49 日
延べ利用者数	173 名
平均利用者数	3.5 名
平均利用率	35.3%



（6）松原事業所

ア、《ラクーン（生活介護）》

a 概況

・年度の前半は、4 月に開設した法人内の新事業所に、複数の利用者様が移られ、利用率が低下しましたが、年度の終盤には 100%を達成できる週が増えました。

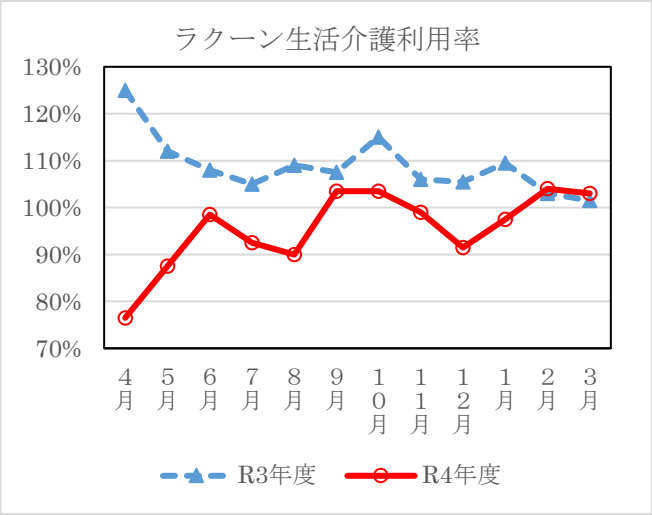
・担当者会議等の開催に努め、情報の共有や問題の解決等に取り組みました。

・コロナ禍のもとではありましたが、散歩や近隣の公園等に行き、利用者様に体を動かして頂き、ストレス発散していただけるよう支援を行いました。

・法人内介護部会、自立支援協議会のケース検討勉強会や ZOOM 等の WEB 研修を活用し、職員のスキルアップに努めました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	5,926 名
平均利用者数	19.0 名
平均利用率	95.3%
平均区分	4.5



イ、《セレッソ館（共同生活援助）》

a 概況

・満床への取り組みとして、見学や体験利用の希望者を積極的に受け入れました。

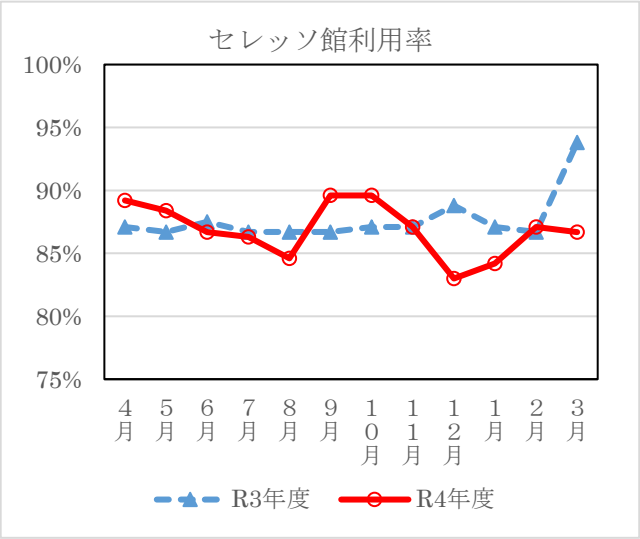
・日々の健康管理として担当看護師との連携を密にし、通院等きめ細やかに迅速に対応させて頂きました。

・4 月と 12 月に各 1 名のコロナ陽性者が出ましたが、適切な対応によりクラスター防止に繋げられました。

・暑中見舞いや年賀状等を用いて、ご家族・関係者等に日々の状況を連絡し、信頼関係の構築に努めました。

b 利用率の推移

定員	24 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	7,742 名
平均利用者数	21.2 名
平均利用率	88.4%



（7）六郷事業所

ア、《三桝屋總本店（生活介護・就労継続支援 B 型)》

a 概況

（就労継続支援 B 型）

・昨年度の法人内グループホームへの朝食に加え夕食の食材提供もスタートしました。令和元年に事業継承以来、最も高い売上を計上することができましたが、原材料や光熱水費等の経費の高騰で利益率に関しては厳しい状況もございました。

・令和 4 年 6 月より施設外就労をスタートし、物流センター内にて、ピッキング・清掃・番重洗浄等の作業を請け負い、4 名の方が週 5 日間、一般企業内で作業行っております。

・令和 5 年 2 月より定員を 20 名から 10 名とし、より専門的な作業の提供と高工賃を目指すことができるよう体制を変更いたしました。

・食品に関わる事業所として手洗い・消毒を確実に行い、衛生管理を徹底しました。

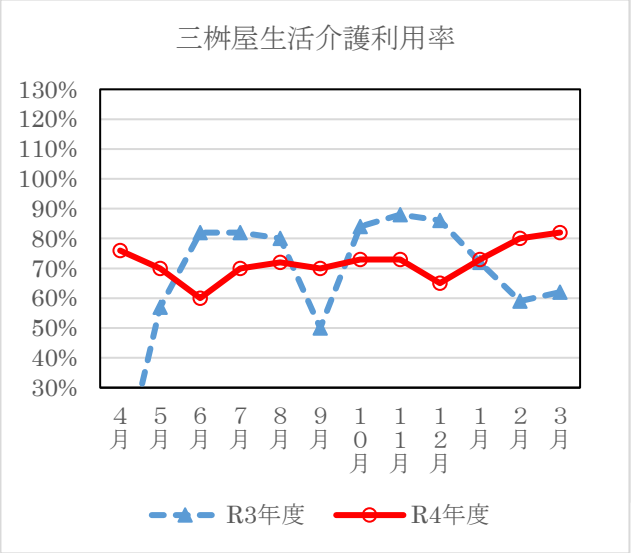
（生活介護：みますやあかでみぃ）

・年度後半より、作業プログラムに力を入れ、令和 5 年度は「毎月工賃を支給できる生活介護」を実践できるよう準備することが出来ました。

b 利用率の推移

生活介護

定員	10 名
開所日数	261 日
延べ利用者数	1,868 名
平均利用者数	7.2 名
平均利用率	71.6%
平均区分	4.1

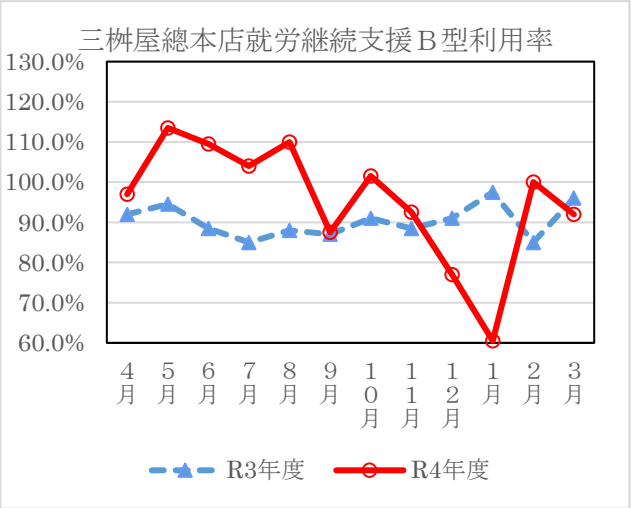


就労継続支援 B 型

定員	10 名
開所日数	282 日
延べ利用者数	4,879 名
平均利用者数	17.3 名
平均利用率	94.4%
平均工賃	27,611 円

※令和 5 年 2 月より定員 20 名→10 名

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 533 名/年を除く



イ、《ホームみやび（共同生活援助）》

a 概況

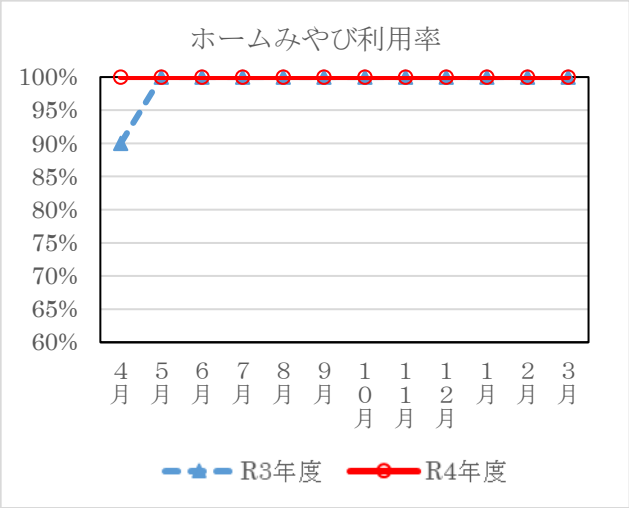
・1 年を通して満床をキープすることが出来ました。コロナ禍ということもあり外泊や入院等もなく、利用率 100%の年度となりました。

・コロナ禍のもとではありましたが、少しでも利用者様の息苦しさを解消できるよう、好きなお弁当を調達し近くの公園でピクニック的なプチイベント等を実施しました。

・昨年度と同様に、手洗い・手指消毒・換気・施設内でもマスクの着用等を励行し、また食事の際は「黙食」とさせて頂き、利用者様とスタッフ一丸となり、安心安全な生活の場つくりに努めました。

b 利用率の推移

定員	10 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	3,650 名
平均利用者数	10.0 名
平均利用率	100.0%



ウ、《カレンフィールド（生活介護）》

a 概況

・令和 4 年 4 月に定員 20 名の事業所として開所いたしました。館林市内の事業所としては最重度の利用者様の受け入れを行い、利用者様の障害支援区分の平均区分は 5.3 でした。

・法人内グループホームの重度の方の受け入れの他、行政や地域の相談支援センター、特別支援学校等に向けて見学会を実施し、新規利用者様の積極的な受け入れを実施いたしました。その結果、年度後半は利用率 100%を超え、多くの方の受け入れを実施しております。

・同一建物内にある共同生活援助事業所カレンホームと協力し、利用者様を 365 日 24 時間支えられる仕組みづくりを行い、安全・安心・安定した生活の支援を行いました。

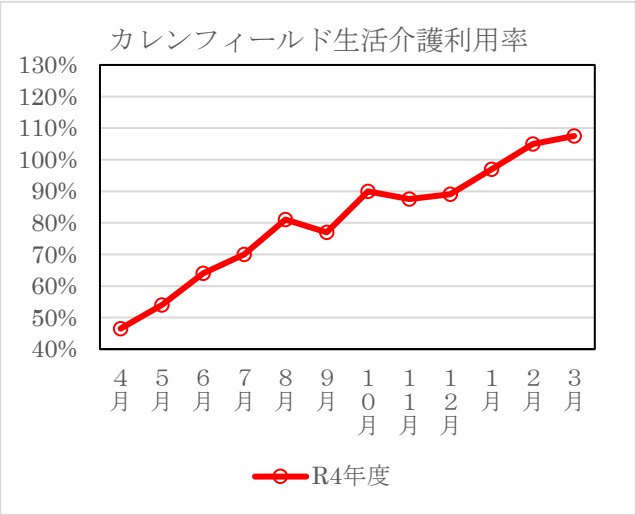
・午前中は主に入浴支援を実施しており、ストレッチャータイプの機械浴設備を活用し、重度の方の入浴支援を実施しております。

・午後の活動では利用者様に合わせて、カラオケ等デイアクティビティ、散歩やドライブ等の屋外活動、ビデオ解体を取り入れた生産活動、スヌーズレン室を活用した休息など、多種多様なメニューを実施し、好評を頂いております。

・担当者会議等の開催に努め、利用者様それぞれの情報の共有や問題の解決等に取り組みました。

b　利用率の推移

定員	20 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	5,015 名
平均利用者数	16.1 名
平均利用率	80.4%
平均区分	5.3



エ、《カレンホーム（共同生活援助・短期入所）》

a　概況

・令和 4 年 4 月に共同生活援助：定員 20 名（10 名×2 ユニット）短期入所：4 名の事業所として開所しました。

・日中サービス支援型として、法人内では唯一の夜勤体制があるグループホームとなっており、夜間の排泄介助や見守り支援など、重度の方の居住サービスの提供を実施しております。そのため、地域からの需要も高く、1 年で 18 名の方がご入居されました。

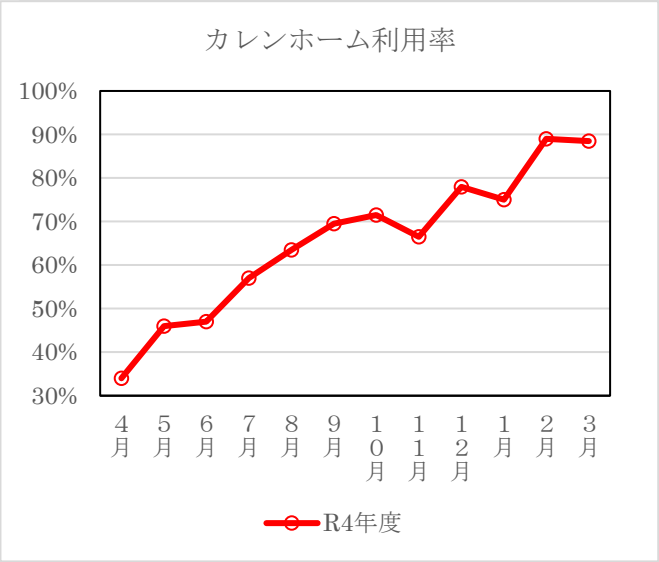
・併設する短期入所では、主に地域の方の入居に向けた体験の場や、保護者の方のレスパイト、また緊急時の受け入れ先として、非常に多くの方のご利用がありました。特に緊急時の対応としては 8 名/年の方の受け入れを行い、保護者の方の入院等の際でも住まいの場の確保を実践いたしました。また、令和 5 年 2 月より、館林市外 5 町（板倉町、邑楽町、大泉町、千代田町、明和町）で協同する生活支援拠点事業に参画し、緊急時の受け入れを実施しました。

・看護師が配置されており、日々の健康管理を密にし、通院等きめ細やかに対応させて頂きました。

・1 月に 4 名のコロナ陽性者が出ましたが、きちんとゾーニングを行い、それ以上の感染拡大を防ぎました。

b　利用率の推移

定員	24 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	4,984 名
平均利用者数	13.7 名
平均利用率	68.3%



（８）猿田事業所

ア、《フルーエ（生活介護）》

a 概況

・感染症対策（テーブル上のパーテーションの設置、マスクの着用「食事介助者対応時のフェイスシールド使用」、うがい、手指消毒、送迎車内の消毒、ホール内の消毒、換気の徹底）を通年行う事で、クラスターを発生させることなく支援できました。

・外出レクを自粛している中、利用者様に喜んでいただくため、キッチンカーやテイクアウト、出前等、普段食べられないものを提供しました。（ラーメン・チュロス・海鮮丼等）

・行事については、ホール内で出来るものを行いました。（開設 4 周年記念、七夕、夏祭り、ハロウィン、芋煮会、クリスマス会、新年会、手作りおやつや手作りカレー、たぬきそば等）

・フルーエの取り組みとしては入浴日と活動日を分けて取り組む事で、利用者様との関わる時間を確保出来、継続した活動の取り組みを行うことができました。活動日（火・木）は音楽療法や創作活動など、楽しく参加出来る内容を提供しました。

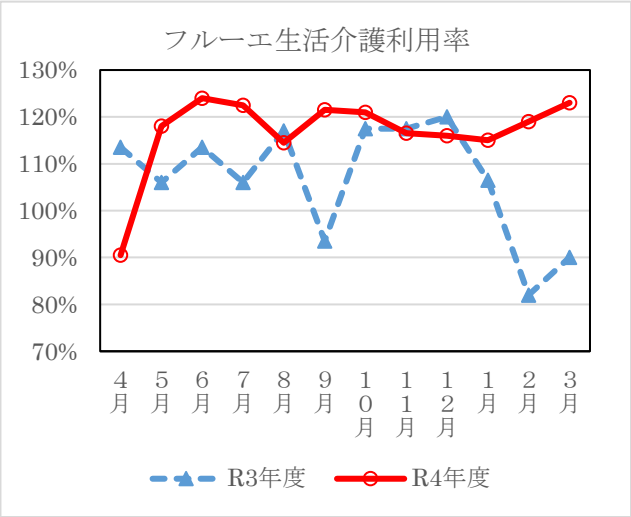
・生産活動として内職を希望する利用者様が多く、活動を調整しながら提供を行いました（おかずカップ詰め、お菓子の箱折り・箱詰め、エバーパッキン）。

・成人を迎えた利用者様が 4 名いらっしゃいました。フルーエでは成人のお祝いとして利用者様皆さまで、甘酒で乾杯いたしました。

・職員のスキルアップのため、事業所内研修を実施しました。（感染症対策・口腔ケア等）

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	7,249 名
平均利用者数	23.3 名
平均利用率	116.5%
平均区分	5.0



（9）愛光園障害者相談支援センター共生

指定特定相談支援事業所の名称	愛光園障害者相談支援センター共生		
主な対象市町名	栃木県足利市、佐野市、群馬県館林市		
職員配置の状況	氏　　名	職種等	資格等
	原　健一	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員
	室岡三慈	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員
	本間晴香	相談支援専門員	社会福祉士

業務項目	業務の実施方針等	回数、件数、開催時期等
① サービス等利用計画およびモニタリングの実施	○利用者様がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるような計画を作成した。 ○利用者様の意思及び人格を尊重して、利用者様の立場に立ち計画の作成を行った。	随時 成人　185 件 児童　34 件
	○利用者様の希望や目標の達成状況などを含めて、モニタリングを実施し、生活の向上を目指す支援を行った。	・モニタリング時期 ・状況の変化に応じて 成人　464 件 児童　35 件
② 関係機関との連携	利用様者の望む生活が実現できるよう、市町、障害福祉サービス事業者等との連携を図った。	随時

（１０）足利市障がい者基幹相談支援センター

障害者相談支援事業　実績報告書（令和4年度）								
障害者相談支援センターの名称等	足利市障がい者基幹相談支援センター							
対象市町村名	足利市							
職員配置の状況	氏名		職種等		資格等			
	石井 義憲		センター長		放射線技師			
	長 秀紀		主任相談支援専門員		社会福祉士、社会福祉主事、障害者上級ケアマネ研修修了、介護支援専門員、主任相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーター			
	尾澤 嘉孝		相談支援専門員		社会福祉主事、高校2級社会科教員免許、手話通訳者、セルプ士、障害者上級ケアマネ研修修了、全リハ協アドバンスコース修了、ひきこもりサポーター、医療的ケア児等コーディネーター			
	勝又 明日香		相談支援専門員		精神保健福祉士、社会福祉士、社会福祉主事、介護支援専門員、公認心理師			
	舘野 真弓		相談支援専門員		社会福祉士、社会福祉主事			
相談実績	相談実人数		499（内児童79）					
相談形態（延べ件数）	電話・メール	来所	訪問	同行	関係機関	支援会議	その他	計
	1,438	296	366	113	829	15	110	3,167

処理（対応）実績（延べ件数）	
情報の提供	2,042
サービス利用の助言	326
サービス利用の申請援助	391
生活プラン作成援助	4
他機関紹介	32
その他	1,148
合計	3,943

※相談形態と処理（対応）実績の件数については、1件の相談で複数の処理（対応）をする場合もあるため、件数は一致しません。

○　主な相談事例

身体障がい者：50代、進行性筋ジストロフィのある男性。ゴミ出しができないということで、近隣住民に相談があった。その後、地域包括支援センターの保健師と民生委員で訪問した結果、介護保険の対象外で身障手帳があることが判明した。地域包括支援センターの保健師と当センターの相談支援専門員が訪問し、状況およびニーズを確認。病気の進行により、ゴミ出しや掃除が出来なくなってしまったことが分かった。部屋中にモノやゴミが散乱している状況であったため、ヘルパーを導入するにも現状では困難なので、本人の了解のもと便利屋によりごみの処分を行ってもらった。キッチン、トイレ、浴室、玄関への動線が確保でき、安全に移動できるようにした後、計画相談支援事業所とヘルパー事業所と契約を結び、定期的な家事援助、身体介護（入浴）、通院介助、移動支援（買い物）を利用することになった。本人からは、清潔が保て、できなくなってしまった部分を手伝ってもらえるので良かった、との話があった。

知的障がい者：　生活保護係より面接に同席して欲しいとの依頼があり、生保担当と本人に面接。生保受給中の50代女性、中学卒業後、私立高校普通科を単願受験したが不合格、系列の専門学校調理師科に1年通い、その後はリネン関係等に就職したが、どこも1～3年ほどしか続かず、H9年に父親が死亡,R2年に母親も亡くなり、単身で生活している。療育手帳を申請することになり、学齢期の状況等を知っている方はいないか確認、親の従姉妹が近所にいるとの事で本人と訪問し、証明を依頼、判定に同行しB1の手帳交付、年金申請を行うため、精神科に受診同行し、診断書を依頼、年金申請を手伝い、ハローワークにて障がい者登録を行い、求職活動を支援した。

精神障がい者：20代男性、躁うつ病で市内の精神科病院に通院中。精神保健福祉手帳2級。3～4時間くらいの短時間でも働けるところを探したいとの希望があり、母親と来所。本人から、就職する前にまず体慣らしをしていきたいとの話があり、福祉サービスの就労支援について紹介したところ、本人としてはB型から利用して、いずれはA型にステップアップしたいとの話があり、2か所のB型事業所を見学。見学した中の1か所の事業所で2日間の体験利用を行った。体験利用の最終日には本人から今後も利用したいとの意向が聞かれたため、申請手続きを進めて現在は週3日利用。順調に通えている。

社会資源創出等に関する企画・提言（企画・提言の有無、内容、提言結果等を記載）

足利市地域自立支援協議会の各専門部会において、地域課題の協議を行った。
地域支援部会1G(精神疾患のある方の地域課題の協議)
課題：①事例検討部会から抽出された課題の協議「金銭の問題のある家族へのアプローチ」「高齢者支援機関との連携」②「地域で気軽に相談できる機会の確保」、「生活に困っているにも関わらず、埋もれている事例の把握」、③「精神障害者への理解、啓発の不足」
目的：①多職種連携、②地域で気軽に相談できる体制、③精神障害者の理解促進
協議結果：①ケアマネージャー、地域包括支援センター、金銭管理の機関との連携を図れる体制つくりについて意見交換。今後、具体的な連携を促進する方法について協議していく。②「埋もれている事例」が発覚した時に支援者自身がどこの専門機関に相談すればよいか把握する。困った時に相談できるよう、既存にある相談先一覧表を活用して周知する。③精神障害の理解については、市の広報紙（あしかがみ）に精神障害について理解を促す記事を検討した。また、同時に啓発のチラシを作成していく。
地域支援部会2G(知的・身体の障がいのある方の地域課題の協議)
課題：①「足利市障がい児者施設マップの配布状況の確認」、②「おひさまマルシェの活動の確認」、③「安心キットの活用の周知」、④「地域での相談体制の構築」
目的：①マップ活用の促進、②障害の理解促進、③安心キッドの活用促進、④地域での相談体制の構築
協議結果：　①マップのダウンロードを基幹相談支援センターのHPからできるようにした。②おひさまカフェはハートショップ部会と協力し社協が中心になって行っていく。③安心キッドの周知は個人情報への配慮を考慮した上で検討する。④「いちごハートネット」の事業の周知が不足している。坂西地区では、地域包括支援センター、相談支援事業、民生委員等が集まり情報共有を図っていく。
就労支援部会（就労に関する課題の協議）
課題：①「足利市の就労系事業所ガイドブックの作成」、②「就労アセスメントの現状の確認」、③「比較的新しく開所した就労継続支援A型、B型事業所の部会構成員による視察」
目的：①就労支援サービスの情報提供、②有効な就労アセスメントの実施、③就労訓練事業所の把握
協議結果：①内容を追加したガイドブックをR4年7月発行した、②就労アセスメントの現状と課題を確認した。③部会構成員が、R5年3月7日～29日の間でA型3か所、B型9か所視察を視察し、質疑応答を通して理解を深めた。
児童支援部会(児童に関する課題の協議)
課題：①「医療的ケアが必要な子どもと家族のためのガイドブックの活用」、②「医療的ケアコーディネーターに望むことの意見交換」、③「知的障害、発達障害児が利用できる短期入所施設が少なく、保護者の休息が十分図れていない」「地域に障がい児を安心して預けられる体制が整っていない」
目的：①ガイドブックの有効活用、②コーディネーターの有効活用、③知的障害、発達障害児とその家族の現状と課題を明らかにして、対応を協議する
協議結果：①ガイドブックは基幹相談支援センターのHPからダウンロード可能とした。②医療的ケアコーディネーターは、地域の支援機関と連携して、必要に応じて情報提供していってもらいたい、③知的障害、発達障害児が利用できる施設自体が少ないことが課題、親以外の人の支援になれるために、保護者対象の研修会の開催も必要。

ピアカウンセリング（障害者相談員等による面接）

相談回数：0回

地域の相談支援体制の強化の取り組み

〇市内の相談支援事業者に対する専門的な指導、助言：支援困難事例など随時助言を行い、必要の応じて担当者会議の開催を勧め同席して一緒に検討したり、担当者会議を開催して改めて支援の見立てと手立てを検討した。
〇市内の相談支援事業者の人材育成の支援および地域の相談機関との連携強化の取り組み
・足利市地域自立支援協議会事例検討部会：グループスーパービジョンの手法を用いた事例検討を6回開催し、計画相談事業所から事例を報告があり、支援で困っていることに焦点を当てて、事例の見立てと手立てを検討することで、事例提供者の支援の気づきを促した。また司会や板書者、参加者においてもそれぞれに事例検討を通しての気づきを得られた。
・安足地区障害者相談支援事業者等連絡会：佐野の基幹相談支援センター（相談支援センターみどり、相談支援事業所さの）と共同で「ストレスケア」をテーマにした研修会をウェブにて実施した。日頃の業務を振り返り自身のストレスとどのように対峙していくべきかを考えるきっかけになった。また、ブレイクアウトルームを利用したグループワークでは、お互いの業務の現状や課題、ストレス発散法などの意見交換ができ、ストレスケアを図ることができた。
〇幅広い対象者からの相談：身体、知的、精神障害以外にも難病や発達障害、高次脳機能障害、介護保険の特定疾病、発達障害か知的障害の可能性のある方など幅広い対象者またはその家族、関係者からの相談が寄せられた。その都度、関係する機関や施設と連携して対応した。
〇特別支援学校の進路相談会への出席：足利中央特別支援学校および足利特別支援学校の進路相談会に市の担当と出席し、本人、親と担任、進路指導主事と卒業後の進路について検討を行った。

〇市役所窓口による相談業務 8 件
毎週月曜日（祝祭日を除く）の午前9:30～12:00まで市・障がい福祉課に相談支援相談支援員が出向き相談対応を行った。窓口において相談がある場合は、障がい福祉課の担当者と一緒に面接を行い、状況とニーズを確認した上で支援について情報提供した。複数の課題のある方については、児童家庭課や生活保護担当等の担当者と検討を行った。

総合的・専門的な相談支援の実施について
○身体、知的、精神、発達、高次脳、難病等、障がいの種別も多岐に渡り、重複している方からの相談も寄せられたが、特に精神疾患、発達障害のある方の相談が多かった。相談の受付経路は、全体の５１％が本人、家族・親戚、事業者・施設がそれぞれ１７％、市町が６％となっている。 また、一般就労で離職を繰り返してしまい、センターへの相談をきっかけに障害者手帳を取得することになり、障害者雇用につなげることができた事例。障害年金申請の相談の事例、若年性認知症のある方や進行性の介護保険の特定疾病に該当する方の障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に関する事例、引きこもっている方の民生委員、地域包括支援センターからの相談事例など多岐にわたった事例の相談が寄せられた。 精神疾患のある方については、安足健康福祉センターや精神科病院と医療保護観察の対象者は、宇都宮保護観察所等とも連携して対応した。いずれの事例も、インテーク面接を経てアセスメントを行い、ニーズを明らかにしつつ、関係する機関・団体等と連携して相談を進めた。 ○療育手帳の出張判定において、必要において専門的な見地から助言を行った。 ○医療的ケア児等コーディネーターが大学病院の退院後に向けたカンファレンスに出席し、地域の医療、看護、福祉の関係者とともに退院後の支援の確認および検討を行った。 ○栃木県発達障害者地域支援マネージャーに協力し、令和4年度栃木県発達障害者支援スキルアップ研修を10月27日に実施。市内の相談支援事業所および児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、計４２名の参加があり発達障がい児への支援について学びを深めることができた。
その他（関係機関との連携状況等を記載）
○足利市健康福祉部生活保護担当が主催する「生活困窮者自立相談支援事業支援調整会議」（対面および書面）に出席し、障がい者の対象者に対しての意見交換を行い連携を図った。 ○地区の包括支援センター、介護事業所、民生委員、住民等と連携を図るために、北郷地区合議体に参加し、地域の情報と課題の共有を図り、必要な時に連携が図れるようにした。また、山前地区の地域包括支援センター主催の勉強会にて、ケアマネージャーと包括支援センターの職員対象に当センターおよび障害福祉サービスの説明を行った。また、久野地区および坂西地区における高齢者支援協力連携会議に出席し、地区のケアマネージャー、自治会や民生委員の方々とグループワークを通してお互いの役割の確認と課題に対する意見交換を行った。 ○若年性認知症の相談においては、足利市の認知症支援推進員と連携を図り支援を行った。 ○安足地区精神障害者支援ネットワーク会議においては、地域移行と普及啓発の委員会にそれぞれ所属し、精神障害者にも対応した地域包括システムに対する意見を述べた。 ○就学前の保育園、幼稚園の特別支援コーディネーターワーキングに助言者として協力した。 ○足利市心身障害者・発達障害児療育推進連携協議会に委員として出席し、障害児の支援について協議を行った。 ○栃木県高次脳機能障害者支援連携協議会に出席し、高次脳機能障害のある方の支援の現状と課題について検討した。 ○地域生活支援拠点整備事業（あっしーネット事業）の相談が2件あり、受付・登録し日中利用している法人で受けていただいた。 令和４年3月31日現在の登録者数は１３０名である。緊急短期入所事業を利用するにあたり、不安を抱える児童を対象にした体験入所事業についてあっしーネットコアメンバー会議および自立支援協議会において検討していくことになっている。 ○「医療的ケアが必要な子どもと家族のためのガイドブック」の有効活用されるよう、当センターのホームページで公開した。また、一部内容の変更があり、改訂版を令和４年８月に発行した。 ○ボランティアグループあしかが子育てネット主催の思春期講座「発達障がいと就労について、保護者と体験談と座談会子育てウチの場合」令和4年11月16日に助言者として協力した。 ○令和4年11月26日（土）の高次脳機能障害友の会主催の相談会に市・障がい福祉課とともに協力し、４名の家族の相談に応じた。

３． 部会報告

（1）就労部会

・クリーニング事業所を中心に取り組みを行いました。

・利用者様のレクに関わる活動については法人内の一歩・三桝屋への外出レク支援や就労事業所合同レクにもチャレンジしました。

・各事業所事に光熱費（電気・ガス）の削減運動（休憩時間等には消灯する。ガス使用時間を短く効率よく使用するなど）に取り組みました。

・作業活動については利用者様の特性を生かした作業配置など本人の生産性の向上による工賃アップややりがいに繋がる取り組みを行いました。

日付	区分	内容等	人数
R4.4.27	レク委員	今年度レクについて （GOTO 一歩・三桝屋レク：時期・内容について）	7 人
R4.5.22	事業所担当	障がい者スポーツ大会兼リハーサル大会参加（宇都宮市） 利用者 14 名　職員 10 名	
R4.7.29	運営委員	第 1 回就労部会運営委員会 1. 各事業所の生産状況報告（クリーニング部門） 2. 新規作業について 3. 愛光園居住部門へのリース品提供について 4. 令和 4 年度就労部会の活動内容について	5 名
R4.10.5	虐待研修担当	虐待防止研修の取りまとめについて 3 年以上の職員を選定し委員として研修内容を検討する。 会場を山川・稲岡・あづまで行い就労部会員が参加する。	7 名
R4.10.13	運営委員	第 2 回就労部会運営委員会 1. 就労部会全体会について 2. 部会虐待防止研修について 3. 各事業所の生産活動について（クリーニング部門） 4. レク活動について	5 名
R4.10.26	レク委員会	キッチンカーレクについて 12/21、1/20、2/6、2/20	7 名
R5.2.24	部会員	就労事業所キッチンカーレク（稲岡会場） キッチンカー6 台参加　食事とプレゼント提供 利用者 182 名　職員 48 名	
R5.3.24	部会員 （正職）	全体会（緊急時における医療的対応について） １．新入職員の紹介 ２．事故対応テキストの紹介 ３．実演（発見から心臓マッサージ･AED/応援者の対応） ４．人形を使用しての心臓マッサージ・AED の使用	29 名
R5.3.28	レク委員	キッチンカーレクの振返り 来年度レクについて	7 人

（2）介護部会

介護部会は専門的な介護技術取得のための研修等を実施しております。今年度は3年ぶりの全体会を開催するなど、職員それぞれのスキルアップに努めました。また、愛光園介護福祉士会を中心に事業所内での研修も実施し、専門的な必要な介護技術の伝達をしました。その他、創作・芸術作品コンクールを開催し、利用者様の活動意欲向上に努めました。

【ユニット会議】

日付	区分	内容等	人数
R4.4.21	運営会議	事業所ごとの勉強会について。 令和4年度の介護部会の方向性について。　他	8
R4.5.4	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 アイヴィレッジ見学会について。　他	8
R4.6.14	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 通所利用者に対する健康診断書について。　他	6
R4.7.20	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 介護福祉士会の進捗状況・現在の動向について。	8
R4.8.25	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 利用者の芸術系の活動について。 各事業所のコロナの状況や、対策について。　他	9
R4.9.24	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について 利用者の芸術系の活動について。 虐待防止研修について。　他	8
R4.10.18	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 虐待防止研修について。　他	8
R4.11.18	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 利用者の芸術系の活動について。　他	8
R4.12.16	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 利用者の芸術系の活動について。　他	8
R5.1.16	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 利用者の芸術系の活動進捗状況について。　他	4
R5.2.14	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。 部会別のマニュアルの策定について。　他	8
R5.3.31	ユニット会議	事業所ごとの勉強会、現在の状況について。　他	8

【全体研修会】

日付	区分	内容等	人数
R4.7.27	全体会	レクリエーションについて	29

（3）居住部会

令和 4 年度はサビ管グループにて、コロナ禍における対応（コロナ発生時、自粛等の扱いなど）や法人内のグループホーム（以下 GH）全体に関わる課題等について、協議・検討を行いました。

日付	区分	内容	人数
R4.5.9	サビ管 グループ	コロナ感染予防による規制と緩和状況について コロナ発生時マニュアルについて 各 GH の空き、入居予定、希望者について	3
R4.7.12	サビ管 グループ	健康診断書、健康状態確認シートについて 各 GH の空き、入居予定、希望者について コロナ感染予防の自粛解除について 寝具類のリース化について 自転車保険について	5
R4.9.13	サビ管 グループ	各 GH の空き、入居予定、希望者について 各 GH の法人内での位置づけと利用者像について 虐待防止研修について 人材育成について	5
R4.10.11	サビ管 グループ	「住まいの場　めざす方向」説明（理事長より） 各 GH の空き、入居予定、希望者について 法人内の方向性と今後について	5
R4.11.8	サビ管 グループ	各 GH の空き、入居予定、希望者について 虐待防止研修について サビ管業務について	7
R4.2.7	サビ管 グループ	各 GH の空き、入居予定、希望者について 虐待防止研修について 新規入居者の通院先について 光熱水費について	7
R4.3.14	サビ管 グループ	各 GH の空き、入居予定、希望者について 虐待防止研修について コロナ感染予防自粛解除について 来年度の居住部会について	7

（4）地域支援部会

昨年度に引き続き、社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員の有資格者を構成員とし、相談支援や援助技術において専門的な見地から、助言できる人材の育成を図っていくよう活動を行いました。主に、個別支援会議、個別支援計画、ケースの検討や援助技術等、事業所のニーズに応じた内容を企画し、各事業所に出向いて研修を開催しました。部会員が主体となり企画・運営することで、職員同士の学びの場になりました。

令和4年度取り組み内容　相談支援に従事する構成員を中心に企画運営して活動した。

日付	区分	内容	人数
R4.3～5	アンケート実施	「医療的ケアのある方の受け入れに関するアンケート」 生活介護（デイ）、短期入所、GH の 12 事業所に、医療的ケアの必要な方の受け入れの実績と今後受け入れる場合に必要となる整備についてアンケートを実施。実施結果については、各事業所に配布し、医療的ケアの必要な方の受け入れ、相談に活用してもらうことになりました。	
R4.5.25	研修	令和 4 年度第 1 回愛光園地域支援部会（出前研修） 施設入所利用者の支援についての検討 関係するサービス管理責任者、支援員、看護師、地域支援部会委員が参加し、見立てをして手立てを検討した。家族への協力を依頼すること、統一した支援を行うなど具体的な対応について検討しました。	12 名
R4.10	アンケート実施	法人内でモニタリング～個別支援計画作成までの一連の支援の流れについて、就労、生活介護、GH のサービス管理責任者 5 名に「モニタリング～個別支援計画作成までの支援の流れ」をどのように行っているかのアンケートを実施。その後に行う支援の流れの検証を行う研修の資料としました。	
R5.3.25	研修	令和 4 年度第 2 回愛光園地域支援部会（出前研修） 目的：GH のサービス管理責任者がアセスメントおよびモニタリング～個別支援計画作成の支援について再確認し、実施についての課題や工夫について具体的に検討を行う。 内容：「モニタリング～個別支援計画作成までの支援の流れ」のアンケートに回答をしたサービス管理責任者に実際の支援について報告してもらい、その後 2 グループに分かれ、意見交換を通して個々のやり方の検証を行いました。終了後のアンケートでは、「個別支援計画に対してサビ管のするべき事、チームとして支えて頂くために「どのように」という点を明確に打ち出すことがとても大切ということに気付かされた。」などの意見があり、実務に関する連携やスケジュール管理について各自のやり方を立ち止まって検証する機会となりました。	14 名

４．委員会報告

（1）人材育成委員会

職員の支援力向上、組織人として求められる知識・スキルの習得を目的に活動しています。初級オリエンテーション、中級オリエンテーションといった階層別研修を中心に各種研修の企画・運営、法人独自の人材育成プログラム構築に向けた職員向けアンケートの実施等に取り組みました。

【委員会開催】

日付	議題等	人数
R4.4.15	職員向けアンケートについて 初級オリ・中級オリ開催について	8
R4.5.23	中級オリ専門研修開催要項確認　　※ZOOM 開催 初級オリ、職員向けアンケートについて	5
R4.7.6	初級オリエンテーション開催内容最終確認	6
R4.7.19	初級オリ反省、振り返り／外部講師研修について	6
R4.8.12	中級オリ専門研修「障害福祉サービスについて」開催について 下半期の研修開催予定について 議題：事業所説明ができる人材の育成について	7
R4.9.29	10 月開催の中級オリ専門研修について	6
R4.11.4	令和 4 年度中級オリエンテーション開催について 初級オリ外部講師研修について	7

【研修開催（外部研修受講含む）】

日付	研修内容	人数
R4.5	職員向けアンケート実施	
R4.6.1	中級オリエンテーション専門研修② 「メンタルヘルスに関する知識」	32
R4.7.14/19	令和 4 年度　初級オリエンテーション 理事長講話、常務から事業所説明、事業所見学 各種講義：「障害について」「リフレーミング」	15
R4.10.14	中級オリエンテーション専門研修③ 「障がい福祉サービスについて」	33
R4.1.17	初級オリエンテーション外部講師研修 「接遇・マナー研修～お客様満足度向上に向けて～」	14
R5.1.24	中級オリエンテーション専門研修① 「知的障害のある方への支援（発達障害含む）」	22

※R4 年度より、中級オリエンテーション基礎研修は 2 年に 1 回の開催へ変更となる。

（2）広報委員会

広報委員会では、今年度は Instagram、Facebook の運営の他に、動画作成を職員が実施できるよう研修を開催いたしました。また、内部広報として、従業員に関わる身近な話題、社会情勢などを題材に広報トピックスを作成し、従業員全員に周知していく活動を月 1 回実施しました。

【委員会開催】

日付	区分	内容等	人数
R4.4.18	広報委員会	旧情報ネットワーク委員会開催について。 動画撮影、編集について。	7
R4.5.16	広報委員会	旧情報ネットワーク委員会への伝達事項について。	8
R4.6.21	広報委員会	旧情報ネットワーク委員会伝達事項について。 情報管理規定についての確認。	5
R4.7.15	広報委員会	動画編集メンバーの各拠点スタッフの選抜について。	6
R4.8.16	広報委員会	リモート会議の活用について。	4
R4.9.20	広報委員会	職員紹介制度、求人情報更新について。	5
R4.10.17	広報委員会	議長、書記の役割、アップデートの輪番制の確認。	5
R4.11.9	広報委員会	SNS専用広報誌アップデート 6 号について。	6
R4.12.8	広報委員会	食の推進委員会、号外の依頼について。	5
R5.1.11	広報委員会	マイナンバーカード申請の手続きお手伝いについて。	5
R5.2.7	広報委員会	マイナンバーカードについてのアンケートについて。	5
R5.3.6	広報委員会	来年度の広報委員会の活動について。	6
R4.5.13	旧情報ネットワーク委員会	・各事業所の担当について。 ・SNS投稿にあたって注意点。（再確認含む） ・ソーシャルネット規定についての確認事項。 ・投稿についての悩み等。	8

【動画作成研修】

R4.5.10 R4.6.14 R4.7.19 R4.8.23 R4.9.13 R4.10.13	動画編集会議メンバー	・初心者でも出来る動画編集。 ・制作の流れを学んで全体を掴もう。 ・誰に向けて作るのか、企画を練ろう。 ・スマホを活用して撮影しよう。 ・canbaの使用方法、YouTube作成手順。 ・作品を作ろう。いくつかの優秀作品を紹介し、良いところを学ぼう。	4
R4.11.29 R4.12.27 R5.1.31 R5.2.28 R5.3.28	動画編集会議メンバー	・動画作成。	4～6

（3）職場環境委員会

・職場環境委員会では、職場内環境改善や風紀、美化を意識する委員会として活動を行ってまいりましたが、令和5年度より委員会名称を「サービス向上委員会」へ変更し、より具体的に利用者様へサービスの質の向上や職員の意識向上を目指す委員会として活動していく事を決定いたしました。

・各委員が所属していない事業所を訪問し、美化の観点から改善が必要な箇所を確認するなど、次年度の取り組みに向け新たな取り組みをスタートさせました。

・月次での重点取り組みを実施し、職員がより支援や通常と別の視点で物事を考えていけるよう取り組みを行いました。

R4年4月・10月	交通安全活動週間
R4年5月・11月	あいさつ運動週間
R4年6月・12月	5S活動週間
R4年7月・R5.1月	労働災害防止週間
R4年8月・R5.2月	言葉遣い意識週間
R4年9月・R5.3月	防災意識週間

５．評議員会の開催状況

	日程	内容
1	R4.6.24	業務運営状況について 令和3年度事業報告について 令和3年度決算報告について 定款の変更について 社会福祉充実残額について
2	R5.3.29	業務運営状況について 令和4年度補正予算（第2次）について 令和5年度事業計画について 令和5年度予算について

６．理事会の開催状況

	日程	議案内容
1	R4.6.8	理事長の職務執行状況の報告について 令和３年度事業報告について 令和３年度決算報告について 定款の変更について 令和４年度定時評議員会の開催について　他
2	R4.9.21	理事長の職務執行状況の報告について 職員就業規則の改正について 職員給与規程の改正について 育児・介護休業等に関する規程の改正について　他
3	R4.12.22	理事長の職務執行状況の報告について 令和４年度補正予算（第１次）について 事業所の定員変更について スプリンクラー整備の実施について 土地等の取得について
4	R5.3.6 （決議の省略）	令和４年度臨時評議員会の開催について
5	R5.3.29	理事長の職務執行状況の報告について 令和４年度補正予算（第２次）について 令和５年度事業計画について 令和５年度予算について 就業規則の改定について 新規事業の開設について 評議員選任・解任委員会運営細則の改正について 評議員選任・解任委員の選定について 評議員の辞任及び候補者の選任について 評議員選任・解任委員会の決議の省略について

７． 外部研修等実施状況

		研修名（内容等）	主催者等	所属	参加者
1	4.5.18	令和3年度栃木県相談支援従事者研修（WEB）	栃木県障害施設・事業協会	なないろ	小林　晴香
2	4.5.22	全国障害者スポーツ大会 いちご一会とちぎ大会	栃木県	愛光園	川俣　聡司 他
3	4.5.25	5S 教育セミナー「基礎コース」	鈴木コンサルティング㈱	彩光園	篠原　孝
				一歩	押山　大徳
4	4.5.26	安全運転管理者等講習	公益社団法人 群馬県安全運転管理	ラクーン	関　晋二
5	4.6.15	栃木県社会就労センター協議会 正副委員長会議及び関東大会実行委員会	栃木県社会就労センター	愛光園	川俣　聡司
6	4.6.29	安全運転管理者等講習	栃木県公安委員会	陽光園	小野　広久
				足利愛光園	羽深　智敬
				ホームひだまり	大越　雅明
7	4.7.4～6	令和 4 年度栃木県相談支援従事者現任研修（WEB）	栃木県障害者総合相談所	なないろ	黒岩　悦子
8	4.7.4～ 9.15	令和 4（2022）年度栃木県相談支援従事者現任研修 （WEB）	栃木県自立支援協議会相談支援部会 研修ワーキンググループ	相談支援	舘野　真弓
9	4.7.7	安全運転管理者講習	一般社団法人栃木県安全運転管理者協議会	ホームかがやき	髙橋　啓介
10	4.7.22	令和 4 年度全国社会就労センター総合研究大会 （長野大会)(WEB）	全国社会就労センター協議会	彩光園	岡嶋　梨加
				彩光園	春山　奈菜
				彩光園	永倉　徹
				彩光園	佐々木　瑠実
11	4.8.2～3	甲種防火管理新規講習	日本防火・防災協会	彩光園	武石　久美
12	4.9.10～ 11	社会福祉士実習指導者講習会（WEB）	一般社団法人栃木県 社会福祉士会	彩光園	岡嶋　梨加
13	4.9.12	強度行動障害支援者養成研修（WEB）	栃木県障害施設・事業協会	フルーエ	山我　恵子
				ホームかがやき	手嶋　享代
14	4.9.27～ 28	甲種防火管理責任者新規講習	日本防火・防災協会	カレンフィールド	佐藤　圭

15	4.10.5	クリーニング師研修	(公財)栃木県生活衛生営業指導センター	足利愛光園	齋藤　良美
				足利愛光園	浅沼　駿介
16	4.10.4・5・12・27 4.11.15・16	令和４年度栃木県医療的ケア児支援コーディネーター養成研修	栃木県	相談支援	長　秀紀
17	4.10.6・12.5	令和４年度社会福祉法人経営塾	全国社会福祉法人経営者協議会	ホームひだまり	野本　嘉之
18	4.10.7	安全運転管理者法定講習	公益社団法人群馬県安全運転管理協会	三桝屋総本店	藤田　勝美
19	4.10.17	令和４年度栃木県相談支援従事者現任研修（WEB）	栃木県障害者総合相談所	なないろ	黒岩　悦子
20	4.10.29 4.11.13	令和４年度　障害者支援のための研修会	一般社団法人栃木県介護福祉士会	陽光園	吉澤　孝之
				ｶﾚﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ	手嶋　英輔
21	4.11.16	令和４年度第４回　社会福祉法人経営者研修会	栃木県社会福祉法人経営者協議会	彩光園	川俣　弘美
22	4.11.9	強度行動障害支援者養成研修（基礎編）（WEB）	栃木県障害施設・事業協会	ホームかがやき	東條　勝
23	4.11.14～17	日本セルプ士会視察研修	全国社会就労センター協議会	愛光園	川俣　聡司
				足利愛光園	羽深　智敬
24	4.12.5	部下の心理的安全性を高めるために	栃木県社会福祉法人青年経営者会	一歩	押山　大徳
25	4.12.14	令和４年度栃木県強度行動障害支援者養成研修（基礎）（WEB）	特定非営利活動法人栃木県障害施設・事業協会	彩光園	佐々木　瑠実
				ホームかがやき	亀山　早苗
26	5.2.1	自立支援協議会就労部会研修会	館林市外５町自立支援協議会就労部会	三桝屋総本店	藤田　勝美
27	5.2.13～14	令和４年度サービス管理責任者・児童発達支援　管理責任者基礎研修（WEB）	NPO法人栃木県障害施設事業協会	彩光園	春山　奈菜
28	5.3.8	令和４年度栃木県災害福祉支援チーム員（スキルアップ）研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉評議会	相談支援	小野　広久
29	5.3.16～17	甲種防火管理新規講習	日本防火・防災協会	彩光園	永倉　徹
			合計	40 名	

８．事業別職員数（令和５年３月 31 日）

			男			女			合計			平均年齢	平均在籍期間
			常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計		
山川	足利愛光園	生活介護	1	2	3	2	1	3	3	3	6	49.9	8.22
		B	5	3	8	1	3	4	6	6	12	50.8	7.85
	あすか		1	0	1	4	6	10	5	6	11	58.7	11.75
	その他		0	0	0	2	1	3	2	1	3	55.8	14.17
	小計		7	5	12	9	11	20	16	16	32		
あづま	彩光園	生活介護	2	0	2	6	3	9	8	3	11	44.2	9.74
		彩	2	8	10	5	3	8	7	11	18	58.1	4.96
		B	3	1	4	1	1	2	4	2	6	53.4	4.06
	かがやき		2	3	5	6	5	11	8	8	16	61.7	4.47
	なないろ		0	2	2	3	6	9	3	8	11	57.1	4.42
	その他		1	0	1	0	0	0	1	0	1	67.2	20.93
	小計		10	14	24	21	18	39	31	32	63		
松原	セレッソ館		1	3	4	4	3	7	5	6	11	66.9	5.94
	ラクーン		4	3	7	2	7	9	6	10	16	50.9	4.89
	小計		5	6	11	6	10	16	11	16	27		
六郷	カレンフィールド		5	2	7	7	7	14	12	9	21	45.2	4.52
	カレンホーム		3	2	5	3	5	8	6	7	13	55.2	2.13
	みやび		1	1	2	0	2	2	1	3	4	65.9	3.50
	生活介護三桝屋		1	0	1	1	3	4	2	3	5	48.2	1.86
	三桝屋		5	4	9	4	1	5	9	5	14	44.7	3.12
	小計		15	9	24	15	18	33	30	27	57		
アイタウン	ほのか		1	1	2	5	8	13	6	9	15	62.2	5.94
	ひだまり		3	1	4	4	12	16	7	13	20	64.3	6.78
小計			4	2	6	9	20	29	13	22	35		
稲岡	工場	愛光園	6	0	6	2	7	9	8	7	15	52.8	10.73
		共働舎	1	4	5	5	9	14	6	13	19	50.8	6.26
		その他	1	0	1	0	0	0	1	0	1	52.8	19.51
		小計	8	4	12	7	16	23	15	20	35		
	介護	陽光園 生活介護	11	5	16	12	5	17	23	10	33	44.4	6.49
		陽光園 入所	0	2	2	2	0	2	2	2	4	61.0	8.56
		サンリット	1	0	1	0	1	1	1	1	2	48.0	7.31
			12	7	19	14	6	20	26	13	39		
大久保		一歩	2	2	4	3	4	7	5	6	11	57.1	7.12
小計			2	2	4	3	4	7	5	6	11		
猿田		フルーエ	2	4	6	6	6	12	8	10	18	51.4	4.12
		共生	1	0	1	2	0	2	3	0	3	40.6	13.07
小計			3	4	7	8	6	14	11	10	21		
地域		相談支援	1	0	1	1	0	1	2	0	2	45.9	19.61
小計			1	0	1	1	0	1	2	0	2		
合計			67	53	120	93	109	202	160	162	322	54.0	8.00

９． 補助事業の活用状況

令和 4 年度補助事業の活用状況

補助団体	事業所（施設）	事業名または内容	事業予算・補助額	完了日
公益財団法人 JKA	三桝屋総本店	2021 年度補助事業 福祉車両の整備 （ノア）	総額： 3,197,000 円 補助： 1,575,000 円	令和 5 年 1 月
群馬県	カレンホーム	障害福祉施設等ロボット 導入支援事業費補助金 （介護リフト）	総額： 610,000 円 補助： 450,000 円	令和 5 年 3 月
社会福祉法人 栃木県共同 募金会	愛光園	令和 4 年度共同募金配分 （ハイエース）	総額： 3,000,610 円 補助： 1,500,000 円	令和 5 年 6 月 （納車予定）
栃木県	陽光園	障害福祉施設等ロボット 導入支援事業費補助金 （眠りスキャン）	総額： 2,098,800 円 補助： 1,566,000 円	令和 5 年度中 （完了予定）

その他　コロナ関連補助金　750,000 円
　　物価高騰対策関連補助金　8,645,000 円